

NPO 法人マザーズサポーター協会では、納得のいく「今」を生きるために、お役に立つ情報を発信しています。

9 月になりました。今回のニュースレター担当は、名古屋で活動しております森です。私の小学校時代の体験談をお届けさせていただきます。今から 40 年以上も前の古い話ですが、昔話ではありません(笑)。

自分の中で生き続けている親父の覚悟

私が小学校 4 年生の時のこと。今から 40 年も前の出来事だが、その時のシーンは今でも鮮明に覚えている。

■ 学校にいきたい病



私は学校でいじめられていた。そして登校拒否になった。周りには嫌なあだ名をつけられバイ菌扱いをされ、先生からも認められなかった。そんな先生が大嫌いになっ

た。朝起きると、お腹が痛くなる、嘔吐しない、本当に痛い。母が学校に休みの連絡をして病院に行くと痛みは無くなっている。そんな日が数ヶ月続いた。医者も毎週のように来るので、とうとう「その痛みは気のせいだと思うが、そんなに痛いなら今度は手術した方がいいかな・・・」と脅しとも言えるようなことを言われてしまった。やばい・・・もう腹痛は使えない・・・今度は頭が痛いことにしようか・・・いろいろ考えた。とにかく学校を休む理由が欲しかった。

■ 先生の家訪問

当時はまだ今のようにいじめという言葉もなく、学校では先生に叱られ、叩かれることも頻繁にあった時代。夏休み明けから休み出し、家にコタツを出したぐらいに担任の先生が家庭訪問にきた。担任の先生は「このままでは、学校に通えなくなってしまいます。お父さん、お母さんが、無理にでも学校に連れてきてください。学力もどんどん落ちますよ。」長い沈黙の後、親父が私に向かって「茂、そんなに学校に行きたくないのか？」と聞いた。私は首を縦に振り、うなずいた。その後に親父が言った言葉は・・・「だったら、いかにいいよ。」そして、先生に向かってこう言った「先生、茂は行きたくないと言っている。無理して行ってもどうかと思うが・・・」先生は「そんなのではダメです。まずは学校に来ることが大

事です・・・」重たい空気になった。親父がさらに先生に言った「まあいいじゃないですか、茂がこの後 4 年生ぐらい学校に行かなくても、こいつの人生には全く影響ありませんよ！学力なんかは、本人のやる気次第でいつでも挽回できます。それよりも今は茂の気持ちを大事にしてやった方がいい。まあ、そういうことですから、今日はお帰りください。」

担任の先生は、呆れた顔で帰って行った。担任の先生が帰った後、親父が私に向かって「あの先生じゃ、茂には合わないかもしれないな。まー休みただけ休め！いい経験だ」私自身が驚いた。

■ 学校に行かなくてもいい・・・

次の日から毎日休みが確定した。なんとなくお腹が痛いとは訴えてはみたが、痛みはなく軽い気持ちになった。これまであれほど悩んでいた休む理由を考えなくてもよくなったからだ。毎日休みが確定している状態。不思議な感覚。「学校にいかなくやいけない」という常識が当たり前じゃなくなった感じ・・・だった。

■ 自分の中で変化が起きてきた・・・

朝起きて「どうしたら学校を休めるか？」という問いから、「どうしたら学校に行けるか？」という問いに変わっていった。数週間後、親父に「明日、学校に行ってみようと思う」親父は「そっか、無理するなよ。ダメだったらすぐ帰ってこい」。次の朝学校に行った。お腹は痛かったが「行こう」という強い気持ちがあった。無事一日行くことができた。その日の夜、「茂、よかったな、まあ無理するなよ」と言ってくれた。次の日からは普通に学校に行けるようになった。5 年生の頃には、学級委員や児童会も積極的に参加していた。5 年生の担任の先生は、私の強みを理解して伸ばしてくれた。

■ 親父の覚悟を知る

親父は12年前に他界している。でも、小学校4年生の時の親父のあの「休みたいだけ休め。学校に行かなくてもお前の人生は大丈夫だ。」という言葉は今も自分の中に生きている。もしかしたら、そこに根拠や理由などはいらないのかもしれない。自分の子供を信じ切る「親父の覚悟」がそこにはあった。その覚悟の根拠は・・・「だって俺の息子だから・・・」なのかもしれないと、今でもふと親父を思う瞬間がある。



森 茂（もり しげる）

NPO 法人マザーズサポーター協会 メンターサポートコンサルタント1級 認定講師（2019年4月～）
大手国内自動車メーカーの販売会社本部で教育担当として勤務。新人教育、営業職・店長の教育企画・講師を担当しながら組織開発に携わる。名古屋在住。現在は地元小学校のPTA会長も就任。趣味はギター・料理。

■ 自分の中で生き続ける親父の存在承認

マザーズサポーター協会では自立型支援を学び親父の言葉が「存在承認」だったと知った。存在承認とは常識や当たり前、そうすべき、といった考え方を一旦脇に置き、目の前にいる人のことをそのまま受け止めてあげることだと強く思った。そこにいることを評価しないで認めてあげる。40年も前の存在承認の言葉が自分の中で生きる力になっている。そして、今は自分の娘に、親父のような最後まで子供を信じる強さを持てる親父になれるよう奮闘中である。

「私の娘だから・・・大丈夫」

コロナ禍を体験した今だから大切にしたいと思う。

『自立』を促すための《自立型支援方法》



1. 私は「人はいつも最善を選択している」という前提で人と関り続ける。
2. 私は自分の思い込みを一旦はずし、そのままの相手をしっかり受け止める。
3. 私は相手が尊重されていると思う聴き方をする。
4. 私は相手の中の答えを、効果的な質問で引き出す。
5. 私は評価的な表現でない言葉で相手を承認、認知する。
6. 私はコミュニケーションの意図について、いつも意識を向ける。
7. 私は自分の成功体験、情報を押し付けにならないように提案する。
8. 私は「他人の能力、可能性は決められない」ことを知っている。
9. 私は過去と他人は変えられない、人はみな違う（人は見たいようにみられ聞きたいように聞く）ことを知っている。
10. 私は人間関係を破壊する7つの習慣を使わないように意識する。
① 批判する ② 責める ③ がみがみ言う ④ 文句、苦情を言う ⑤ 罰する ⑥ 脅す
⑦ コントロールするために褒美でつる
11. 私は信頼関係を構築するために、いつも安心感のある安全な場を作り出す。
12. 私は相手を常に勇気付け、責任を取る権利を奪わない。
13. 私は失敗したと感ずることも、常に学びの種に変える。
14. 私は、いつもどのような時も、自分が世の中に必要な存在であることを知っています。

「NPO 法人マザーズサポーター協会 ニュースレター 第38号」をお読みいただきありがとうございました。過去に情報提供のご希望があったみなさまに、送付させていただいています。今後も更に内容を充実させ、育てる側に役に立つ「自立型支援方法」の情報やイベントのご案内などを発信させていただきます。

NPO 法人マザーズサポーター協会 <http://m-supporter.com> fax:078-731-0615

